



世界認証に挑戦!

日本一安全・安心なとしまへ

セーフコミュニティとはWHO(世界保健機関)が推進する、予防に重点を置いた安全と健康の質を高めるまちづくりです。

区では平成24年度の認証取得を目指しています。

関セーフコミュニティ担当 ☎3981-1782

Q1 区内には、日本有数の繁華街「池袋」があり、事故や犯罪が多い印象を持ちますが、実際はどうなのでしょう。

A 交通事故の件数は、一番多かった平成13年度の1,885件からほぼ半減し、犯罪発生件数は最多の平成15年度と比べ、約3割減って7,855件となっています。

	最多件数	平成21年度	減少率
交通事故件数	1,885件	958件	▲49.2%
犯罪発生件数	11,589件	7,855件	▲32.2%

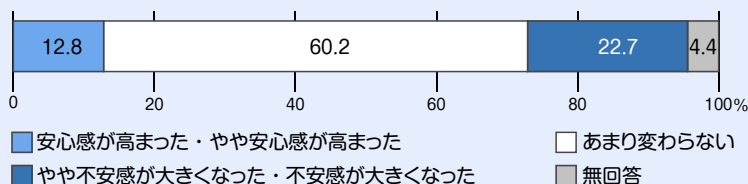
※交通事故のピーク時は平成13年度、犯罪発生のピーク時は平成15年度

Q2 事故や犯罪はずいぶん減ってきているのですね。これなら、安心ですね。

A ところが、今年6月の区民意識調査を見ると、みなさんが感じる不安は改善されていないのです。

事故やけが、犯罪、災害などに対する安心感についての結果を見ると、「不安感が大きくなった」と「やや大きくなった」の合計が「安心感が高まった」と「やや高まった」の合計を約10パーセント上回っています。

事故やけが、犯罪、災害などに対する安心感について



安心感については、区民の皆さんと行政が一体となって取り組んだ環境浄化活動の成果で「落書きやポイ捨て」「繁華街の環境」などで、改善傾向が見られました。一方、「ルールを守らない」「窃盗犯罪」「犯罪の低年齢化」「一人暮らし高齢者の事件・事故」などを含むすべての項目で、悪化傾向が改善傾向を上回る結果となりました。

実際には、交通事故や犯罪の発生は減っていますが、区民の皆さんにはその実感がなく、ギャップが生じています。

アンケートによる意識調査では、社会状況の影響を受け、回答者が区を含むより広い社会を想定して、回答する傾向も見られます。しかし、こうした調査を行ない、その結果をみんなで共有しながら、こうしたギャップの要因を探り、暮らしの安心感を高めていくことも「セーフコミュニティ」活動では大切な目標となります。

区民意識調査

生活の中の不安要素	悪化傾向	改善傾向
ルールを守らない行動	42.7%	7.5%
窃盗犯罪	42.2%	5.9%
犯罪の低年齢化	38.9%	3.6%
一人暮らし高齢者の事件・事故	38.1%	4.4%
自殺やうつ病の増加	37.7%	3.1%
近隣との交流の希薄化	32.5%	6.6%
インターネットなどによる詐欺	31.0%	7.9%
振り込め詐欺や悪質商法	29.6%	12.4%
暴行や傷害、強盗など	28.9%	8.9%
子どもや女性への不審者の声かけなど	25.3%	7.0%
性犯罪	25.1%	6.2%
地震災害などの危険	23.6%	8.3%
落書きやポイ捨て	23.1%	18.8%
交通事故	22.9%	9.1%
繁華街の環境	21.6%	15.3%
子どもの事故・事件	21.2%	11.8%
児童虐待など	20.4%	6.3%
テロ	11.9%	10.6%

※「悪化傾向」が高い順に並んでいます。「悪化・改善傾向」以外の割合は「変わらない」「無回答」の合計。

「協働のまちづくりに関する区民意識調査(平成22年6月実施)」より